

児童が「単元学習計画」を作成し、その計画に応じて児童が学習の内容や方法を選択しながら学習する。

主な学習活動	指導上の留意点
1 児童が本時学習の課題をつかむ。 ・自分の「単元学習計画」から ・自分の「振り返り」から ・新たな教材との出会いから 等	○ 児童が学習課題「問い」を焦点化することができるように、単元をつないだ「振り返り」や教材との出会わせ方（問題提示や発問）を工夫する。 ※教師による「困難を感じている児童」への働きかけ
めあて 児童が解決したい本時の学習課題「問い」	
2 児童が「計画」に沿って課題を解決する。 (1) 自分の学び（内容・方法）を選択し、課題を探究する。	○ 児童が安心して自分の学びを進めることができるように、学習内容及びその解決方法を複数提供する。 ※教師による「児童の選択・決定」の尊重
児童が単元のゴールを達成するために、複数の学習内容から学ぶ内容や順序を選択・決定する。  A→B→Cの順に学習を進めよう。  A→C→Bの順に学習を進めよう。  C→B→Aの順に学習を進めよう。 児童が単元のゴールを達成するために、複数の方法から学び方を選択・決定・修正する。  自分の力で学習を進めよう。 ここからは、友だちと考えを広げよう。  友だちと一緒に学習を進めよう。 ここからは、友だちと考えを深めよう。  先生と一緒に学習を進めよう。 ここからは自分で考えをつくろう。 教師による「困難を乗り越えさせる」ための働きかけ	
(2) 児童が交流により考えを広げる・深める。 (3) 児童が学習内容をまとめる。	○ 「交流」では、視点を焦点化する。 ○ 「まとめ」には、内容知について表記させ、価値づける。
まとめ 本時の学習課題「問い」に対する「答え」	
3 児童が本時学習を振り返る。 ・振り返り ・次時のめあて	○ 児童が学びを自己調整できるように、3つの視点を示す。 ① 「分からない」「できない」を見つけることができたか ② それを乗り越えるために選んだ内容・方法は有効だったか ③ 今日の学びを次の学習でどのように生かすか

児童の「分からない」「できない」を乗り越えさせるための手立て

【自分と「つなぐ」働きかけ】

- ・「前の学習との違いは何ですか？」
- ・「どの学習が使えるそうですか？」
- ・「このような経験をしていますか？」

【他者と「つなぐ」働きかけ】

- ・「Aさんの発言についてどう思いますか？」
- ・「BさんとCさんのどちらの考えに近いですか？」
- ・「Dさんが言いたいことを応援できませんか？」

【教材と「つなぐ」働きかけ】

- ・「どの言葉から人物の気持ちが分かりますか？」
- ・「この場面ですべての計算と考えたのかな？」
- ・「今日学ぶことができたことは何ですか？」

児童の「分からない」「できない」を共有しながら安全・安心な風土を醸成するための手立て

【困難を自覚させる働きかけ】

- ・「解決できるか不安な人はいますか？」
- ・「この問題は難しくないですか？」

【困難を表出させる働きかけ】

- ・「『分からない』を見つけた人はいますか？」
- ・「『分からない』ことを詳しく言えますか？」

【困難に関与させる働きかけ】

- ・「Eさんは何に悩んでいるか分かりますか？」
- ・「Fさんの悩みの解決方法はないですか？」